

会津大×大正大の学生団体「えんびやれ」 地元住民らと交流、地域への理解を深める



▲清掃活動に取り組んだ学生らと上福井集落のみなさん



▲故郷への思いと将来について語った堀金さん(中央)

上福井出身の堀金太さん(大正地域創生学部2年)が代表を務める学生団体「えんびやれ」が、町内で地域と学生が交流する活動を展開しています。

「えんびやれ」は会津大学と大正大学の学生らで構成されたボランティアサークルです。団体名は只見弁で「一緒に行こう」との意味があります。双方の大学の強みを活かし、若者が只見町に関わり続けられる仕組みを作ろうと発足しました。

代表の堀金さんは、4月6日に役場町下庁舎を訪れ、渡部町長や目黒副町長に、故郷の課題や解決に向けた取り組みについて説明しました。

「えんびやれ」の学生ら22名は、5月3日に実施された上福井集落の普請に参加しました。地域の方に教わりながら、慣れない水路の清掃に汗を流しました。

堀金さんに協力する会津大OBの大谷弦さんは「地元の方にとって普請は大変な労働だと思うが、自分たちには身体を動かせる良い機会。只見町に近い会津大が積極的に地域に関われるよう、効率的な日程で交通費や宿泊費を抑えて、地域にも学生にも優しい活動をしていきたい」と語りました。



▲泥上げする大谷さん(左)と堀金さん(中央)



▲学生と住民が熱心に意見を交わした交流会

また、5月4日には朝日公民館で地元住民との交流会を行いました。学生らは住民から直接話を聞き、地域の魅力や現状を知る機会となりました。

代表の堀金さんは「上福井区長に掛け合い、ぜひやってほしいとのことで今回実現した。大学生がやりたいことと集落が受け入れたいことをくみ取り、双方が気持ちよく、楽しんで継続していきたい」と今後に向けて話しました。本年度は、上福井集落のかや刈りや山道普請などの共同活動、オンベといった伝統行事への参加も予定しています。